

平成 29 年度鹿児島大学公開講座「新しい総合計画づくり」

フォローアップ公開講座 開催報告

1. 目的

第5次垂水市総合計画を策定するにあたり、市民と行政が本市のまちづくりにおける課題について認識を共有するとともに、課題に対する市民の考えやアイデアを把握し、計画に反映させるため、「医療・介護体制の充実」、「働く環境の充実」、「子育て支援（人口減少対策）」の3テーマで3回の市民公開講座を実施した。

本フォローアップ講座は、3回の市民公開講座で市民から出た意見やアイデアが基本構想（素案）に反映されているか確認し、具体的な要望、提案をするため。

2. 開催概要

開催概要は以下のとおり。

[フォローアップ公開講座開催概要]

日時	平成 29 年 10 月 15 日（日） 13 : 30～
場所	商工会 研修室
テーマ	3回の市民公開講座について①議論し、教習した「考え方」は何であったか、②どの「考え方」を基本構想に盛り込みたいか、③基本構想素案にその「考え方」が反映されているかチェックし、具体的な要望、提案をする
参加者	58名（市民30名、職員28名）
主な内容	(1) 開会／市長あいさつ (2) 公開講座の趣旨説明 鹿児島大学法文学部法経社会学科 小栗 有子 准教授 (3) ワークショップ ① 3回の市民公開講座の振り返り ② 基本構想素案のチェック (4) 発表と講評 (5) 閉会



3. グループ討議要旨

以下、公開講座の趣旨説明及びグループ討議と講評の要旨をまとめている。

(1) 公開講座趣旨説明

～鹿児島大学法文学部法経社会学科 小栗 有子 准教授

小栗准教授より、フォローアップ公開講座の目的とワークショップの進め方について説明。

(2) ワークショップと講評

① テーマ : 1) 市民公開講座のまとめのチェック

A・B 班 医療・介護体制の充実

C・D 班 働く環境の充実

E・F 班 子育て支援

2) 基本構想素案（将来像、まちづくりの視点、まちづくりの各分野の目標）のチェック

② 各般のワークまとめ

以下、各般の発表内容（市民公開講座のまとめのチェック、基本構想素案（将来像、まちづくりの支援、まちづくりの各分野の目標）のチェック）と小栗准教授の質問、講評の要旨をまとめている。

<市民公開講座のまとめのチェック A・B 班 医療・介護体制の充実>

○A 班

『サブテーマ①』については特に異論は無かった。『サブテーマ②』では医療・福祉・介護を担う人材の育成と、制度等の充実という言葉が抜けているのではないか。「制度等の充実」を入れてほしい。『サブテーマ③』には「教育の充実」という言葉を入れてほしい。「医療・介護施設などのインフラ整備」については『サブテーマ②』に変えた方が良いのではないか。

○小栗准教授

主に言葉を追記する、という意見が出てきたということでもいいか。(A 班：よい) 事務局は追記という意見を今後検討していく、ということでもいいか。(事務局：よい)

○B 班

まず地域で助け合うことが一番大切ではないか、という意見が出た。そのためには、教育機会を充実させる、人材を確保する、生きがいがづくりの場所をつくる、そういうところが重要である。

<市民公開講座のまとめのチェック C・D 班 働く環境の充実>

○C 班

『②働く環境の充実』の 5 つのサブテーマには全て反映されているという意見だった。すべてにおいて、PR、SNS の発信、情報発信が一番大事だという意見が出された。

○D 班

『②働く環境の充実』について、これだけは外せないというキーワードとして、「働く環境

の基盤づくり（若者が集える場）」が大事である。I ターン、U ターンの方々が多くいるが、その方々の成功事例を蓄積していく必要がある。1 回目の公開講座の時に、これを加えてほしいという意見もあった。生産物、生産者、加工製造者、販売者、そして購入者がいる。購入者への支援として売り場まで行くための交通手段を整備したい、そのような支援が必要ではないかという意見もあった。そして「垂水でしか食べられない物」を大切にしていけることが、今後ますます生き残るためには大事になってくる。

<市民公開講座のまとめのチェック E・F 班 子育て支援>

○E 班

『③子育て支援策』の「入院機能をやめた外来機能のみの病院」という表現が分かりにくいので、小児科等の分かりやすい表現にしてはどうか。「労働の価値」という言葉も「働くこと」のような分かりやすい言葉にした方がいいのではないかと。あとは、文言の整理をいくつか行った。

○F 班

『③子育て支援策』の『サブテーマ⑤』のキーワードが場所だけになっているが、場所だけでなく支援方法等の意見も出したため、組み込んでいただきたい。

<基本構想素案のチェック 将来像のチェック>

○A 班

第 1 章について、「資源」という言葉について、これをどう捉えるか。人なのか、産業なのか、質問をさせてもらいたい。

『豊かな自然や文化（“垂水らしさ”）に包まれ、健やかな「心身」を保持する』の部分で、「子育てする親」という表記があるが、高齢者に対する提案がないのではないかと。「高齢者に対する」という言葉も追記してはどうか。

○B 班

文言修正がいくつかあるが、第 1 章の「資源」という言葉がアバウト過ぎる。削除してはどうか、という意見が出た。

「平成 28（2016）年度」は、「2016 年度」という表記でいいのではないかと。

『豊かな自然や文化（“垂水らしさ”）に包まれ、健やかな「心身」を保持する』の「垂水らしさ」という定義が曖昧ではないかと。逆に「垂水らしさ（豊かな自然や文化）」にしてはどうか、という案も出た。

「地域の資源」という言葉の整合性も図らなければいけない。

○C 班

第 1 章について、『豊かな自然や文化（“垂水らしさ”）に包まれ、健やかな「心身」を保持する』で「本市は」、『次世代を担う子どもたちへのメッセージ』で「本市の面積は」とあるが、ここは「本市は」で統一してほしい。「本市は、面積約 162.12 km²で～」とした方が読みやすいのではないかと、という提案である。

『豊かな自然や文化（“垂水らしさ”）に包まれ、健やかな「心身」を保持する』で「カンパチやブリ等」とあるが、他の「等」の表記が「など」のため、ひらがな表記ではどうか。

何か意図があるのか、質問したい。また、「その“垂水らしさ”は、健康的な心身の土台となり、生き生きと健康に自分が希望する場所で暮らし続けています。」とあるが、ここの主語がよく分からなかった。もっと市民が読みやすい表記にして、主語をはっきりさせた方がより伝わるのではないか。

○D 班

第1章について、「地域資源（地域の宝物）」という言葉は、地下にあるものを掘り出したら宝物が埋まっていたこともあるかもしれないが、地域の方々に掘り起こして磨いて、その結果、宝物にするものの方が多いのではないか。この分は順序を入れ替えた表現をすればいいという意見が出た。

『豊かな自然や文化（“垂水らしさ”）に包まれ、健やかな「心身」を保持する』で「カンパチやブリ」「園芸・畜産」とあったが、ぜひ「林業」という言葉もここに盛り込んでいただきたい。また、「垂水らしさ」が含まれた文だが、分かりづらいため、主語を入れた方がいい。「垂水らしさ」という言葉の繰り返しが多いため、分かりづらくなっているのではないか。どうすればいい、という議論まではできなかった。

『次世代を担う子どもたちへのメッセージ』で「子どもたちへのメッセージ」というタイトルになっているが、文章を読んだ際にメッセージ性としてどうか、という意見があった。面積や海岸線の長さがメッセージと言えるのか。もう少しメッセージ性のある文章につなぎ合わせてはどうか、という意見が出た。

○E 班

第1章について、『次世代を担う子どもたちへのメッセージ』で「しかしながら、本市では最重要課題として位置付ける人口減少に歯止めがかけられていない状況にあります。」という文言は消極的な言葉のため、将来像にするのであればもう少し積極的な言葉に変更した方がいいのではないか。

○F 班

第1章について、『豊かな自然や文化（“垂水らしさ”）に包まれ、健やかな「心身」を保持する』では「温暖」という言葉が二度使われている。「市の名前の由来」は「市の名称の由来」でもいいのではないか。また、「子育てする親は、“垂水らしさ”に包まれた子どもの健やかな成長を願っており」とあるが、健やかな成長を願っているのは、子育てをする親だけでなく地域全体だと思ったため、この辺も変更していただきたい。あとは、文言の節々で「～おり」が重なっていたため文章の変更を提案したい。

○小栗准教授

「資源」という言葉、「垂水らしさ」という定義が曖昧で多用されているという点については、大きく考えなければいけない。文言について、言葉や主語を加える部分については、事務局で汲み取っていただきたい。あと「地域の宝物」について、磨いて宝にするのではないか、文言を変えた方がいい、という意見もあった。

○事務局

「資源」という言葉について、限定したものではない。食、伝統、歴史等が含まれた「資源」というつもりで「資源」という表現を使ったが、みなさんの意見を踏まえ修正したい。

○小栗准教授

今の回答について、何か意見はあるか。

○参加者

固定化されるような見方や曖昧な使い方より、文章全体の中で理解してもらえような形で、文言を作成した方がいい。これは市民に読んでもらうため、市民が読んで「なるほど」と言えるような表現がいいと思う。広くとってほしいということではなく、流れの中でその問題をどう捉えるか。そうすると具体性があるって理解が深まると思う。

○小栗准教授

内容の問題というよりも、伝え方の問題としてどう表現したらいいか、資源の中身をどう言葉で伝えるか、という意見だと思う。

<基本構想素案のチェック まちづくりの視点>

○A 班

2点提案したい。『地域の宝物』では、ものの資源等が出されているが、人がない。今いる人たちを含めた「人的資源」という言葉を追加していただきたい。『次世代人材育成』については、人を育てることは大事だが、育てた人が永住してもらうという意味も含めて、「子どもが地域に残れるような環境を整える」という表現をしてほしい。

○B 班

言葉の中に「市民力」や「力」とあるが、「市民、地域、事業者、行政等」が「市民力」ではないか、という意見が出た。ここが「市民力」と同じであれば、括弧で書けばいいのではないか。『次世代人材育成』に「家庭、地域、学校、事業者、行政などが力を～」とあるが、ここも「市民力」と似ているのではないか。ここの整合性が図れた方がいいのではないか。

○C 班

A 班、B 班の意見と同一なため省略させていただく。

○D 班

目を通した中では、反映されているという意見だった。前半のワークショップの中で大事なキーワードとなった「働く場所」、「働く環境の基盤づくり」、「若者が集える場」I ターン・J ターンの方々も含めた地元の方も集える場、それから「垂水でしか食べられないもの」では「垂水らしさ」、これらが文章の中に盛り込まれている。

○E 班

『地域の宝物』の中で、「これら資源等を」という表現を「この宝物を」に変えた方がいいのではないか。また、「市民力によって掘り起こし」を「市民力によってさらに～」と追加した方がいいのではないか。

○F 班

「事業者」と書いてあるが、「事業所」に変更した方がいい、という意見が出た。あと、『安全・安心』で「まちづくりの根幹」とあるが、「まちづくりの基本」に変更してはどうか、という意見が出た。

○小栗准教授

第2章では、「力」という言葉の曖昧さについての指摘と、「宝物」「資源」についても意見が挙がったが、事務局はどうか。

○事務局

第1章『将来像』と同じように、市民の方が見て分かるように今後、工夫を進めたいと思う。

<基本構想素案のチェック まちづくりの各分野の目標>

○A班

『③安心していきいきと暮らせるまち』について、行政の役割がよく分からない表現の仕方である。市民がするか、行政がするか、という意見もあった。冒頭の文言に「各施策を体系的かつ効果的に展開していく」としており、行政がやるということは分かるが、『②次世代の担い手を育成・支援するまち』では「家庭、地域、学校、事業者、行政などが一体となり」という言葉もあるため、「行政の役割」といった主語を足した方がいいのではないかという意見が挙がった。

○B班

『③安心していきいきと暮らせるまち』に「地域」という言葉が入っていない。「健康づくりのための環境」の前に「地域が一体となって」と入れてはどうか。また、「これまでの経験を踏まえ」の前に主語が必要ではないか。ここで言う主語は、市民・行政・事業者で市民全体という訳だが、「多様な主体」のような主語を入れてはどうか、という意見が出た。

○C班

『①地域資源を活かした賑わいのあるまち』を中心に議論した。7月の公開講座においても、情報発信・PR等をすべての面に盛り込むべきだという意見が多かったため、「情報発信・PR」を入れていただきたい。あと、「若者が地域に定着し」とあるが、Iターン・Uターン者はどうするか。今いる垂水の「若者が地域に定着し」であれば定住だと思うが、Iターン・Uターン者についても表現した方がいいのではないか。『②次世代の担い手を育成・支援するまち』についても、産業振興の部分では重要なキーワードであるため、『①地域資源を活かした賑わいのあるまち』にも「担い手育成」について表記をしていただきたい。

○D班

「働く環境の充実」という視点で7月の公開講座を行ったため、各分野の目標の中では『①地域資源を活かした賑わいのあるまち』をじっくり拝見した。前半のワークショップで、「移住者と若者が集える場」、「働く環境の基盤づくり」、「垂水でしか食べられないもの・こと」というキーワードが出てきたが、それらが反映されているという意見でまとまった。『④豊かな自然の恵みを後世に受け継ぐまち』では「田の風景」が垂水らしさや誇りにつながるものだと思う。「自然の恵み」、「豊かな自然」は人の手を入れて保てる農地や里山等を大事にしていきたいという視点からも、後世に受け継がれることに盛り込まれており、これで進めていけたらと思う。

○E班

『②次世代の担い手を育成・支援するまち』の「子どもを見守り、安心して産み育てられる環境づくりに取り組み、多様な人材が集い、次世代を育成・支援するまちづくりに取り組みます」とあるが、「取り組み」という言葉が2つつながっているため、上の「取り組み」を「推進し」という表現に変えてはどうか。『③安心していきいきと暮らせるまち』、『④豊かな

自然の恵みを後世に受け継ぐまち』においても、「取り組み」が2つ出てくるため、「取り組み」の表現を変えた方がいいのではないか。

○F班

『④豊かな自然の恵みを後世に受け継ぐまち』の「後世」を「次世代」に変えて、『②次世代の担い手を育成・支援するまち』と言葉を統一してはどうか。また、『④豊かな自然の恵みを後世に受け継ぐまち』の「自然環境と調和した快適で済みやすい生活環境の整備～」は、第1章、第2章、第3章とつながっていくと思うが、どこから出てきたものなのかがよく分からなかったため、基となる部分はどこなのか教えてほしい。

○小栗准教授

「自然環境と調和した～」という部分に、唐突感があるということか。(F班：はい)

この第3章が、各班の公開講座がそのまま反映された部分かと思う。

『③安心していきいきと暮らせるまち』に関しては、「主語」行政がやる部分はどこか、「地域」という言葉を入れた方がいい、「多様な主体」を入れた方がいい、という意見があった。

『①地域資源を活かした賑わいのあるまち』に関しては、繰り返し「情報・PR」が大事だという視点、若者はもちろんだがIターン・Uターン者をきちんと位置づけてほしい、という意見だった。また「担い手」もこの中に反映してほしいという意見が出てきた。

D班は、内容が解釈できると意見をいただけた。「風景」については、遠い風景だけでなく人の手が加わる「風景」もあって良いという意見で、特に修正はいらないということでもいいか。(D班：はい)

あとは、「取り組み」という言葉の表現、「次世代」という言葉に統一する。「自然環境と調和した～」に唐突感があるという意見があった。

事務局は、これらの意見についてどうか。

○事務局

公開講座の中で「情報発信」「伝える」という意見があったが、その視点がここでは表現されていないため、入れたい。

『④豊かな自然の恵みを後世に受け継ぐまち』で唐突感がある、という意見については、確かに今回の公開講座の中ではエネルギーや環境の話はなされていないが、現在の総合計画内で「自然と共生していくために」という政策が謳われているため、それを踏襲した形で表現させており、今後のまちづくりに進めていくという形で記載した。

③質疑応答

○小栗准教授

では、パブリックコメントの募集も終了し、本日のフォローアップ公開講座の意見を汲み、最終的な基本構想が12月の議会で出来上がる。本日の公開講座では、抽象的な考え方のものであった。それについて具体的に何をするか、という計画や、さらに進めていくための議事計画が年明けの作業となる。今後10年間の大きな考え方に反映していくことを、本日確認していただいた。

最後に質問等はないか。

○参加者

今から私たちが向かう時代はどのような時代なのか。いわゆる少子高齢化、特に少子化時代だという視点で考えていかないと、今後の財政の問題等が出てくる。また、2025年問題、Iターン・Uターン問題等、どうやって人材を育成していくか。自分たちだけで生産し生きていくか、外部から人を呼ぶか。そういった様々な視点で考えないと、総合計画の問題を見ていくことができないのではないかと。人口減少時代に合った総合計画にしていく、という視点をどう貫くかが重要になると思う。先ほどはさまざまな意見が出たため、問題を見極める視点になるのではないかと。思う。

○小栗准教授

貴重な意見をいただいた。他にないか。(一同：なし)

○事務局

本日、公開講座の意見を庁内で検討し、修正作業を進め、12月の議会で議案という形で基本構想を議題に提出し、市議会の議決を経る形を取りたいと考えている。正式な基本構想が出来上がったなら、みなさんに結果を郵送で報告したい。

以上

フォローアップ公開講座の風景

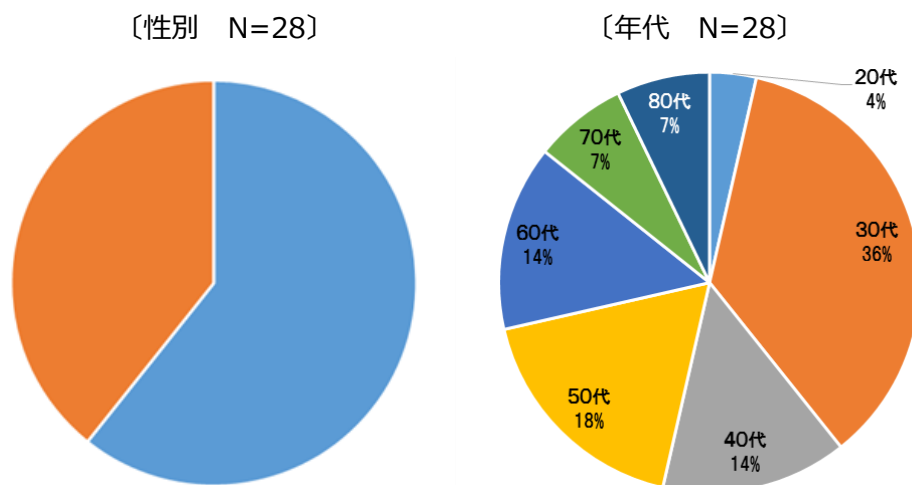


4. 参加者アンケート結果

市民の参加者には、公開講座に参加した感想やワークショップで感じたことなどを聞くアンケート調査を実施した。

アンケート調査結果は以下のとおり。

(1) 回答者の属性



(2) 調査結果

① 公開講座の時間

公開講座の時間については、「ちょうど良かった」が 53.6%と半数を超え、最も多くなっており、次に「長かった」が 39.3%、「短かった」が 7.1%となった。

② ワークショップでは自分の意見を発言できたか？

ワークショップで自分の意見を発言できたか？については、「できたと思う」と「まあできた方だと思う」を合計すると 92.9%と、多くの参加者が自分の意見を発言することができたと回答であったが、「できなかったと思う」の回答が 2人 (7.1%) だった。

③ 今後も市民と行政が気軽に

話し合う機会は必要だと思うか？

今後も市民と行政が気軽に話し合う機会は必要だと思うか？については、「必要だと思う」が 96.4%と 9 割以上を占め、「必要だとは思わない」は 1 人 (3.6%) だった。

④ 今後のまちづくりに期待すること (自由意見)

今後のまちづくりに期待することは以下のとおり。

〔今後のまちづくりに期待すること (自由意見)〕

No	回答内容
1	今後も色々な場面で市と地域の人と一緒に考える場があるといいです。
2	大勢の人が垂水に移住するような街になってほしい。
3	市民の声が届くまちづくり。
4	少子高齢化をストップさせる計画を望みます。市民に解りやすい文言・具体性をもたせるように希望します。
5	10 年計画を少しずつでも実現につなげる様努力してほしい。
6	市民の声も大切なのかも知れませんが、ともすれば井の中の蛙になりがちなので他の地域、活性化が進んでいる地域の人声も聞くべきでは？もう少し時間を掛け幾度となく協議を行うべきでは？
7	今の子供達が大人になっても垂水に住み続けたいと思うような町づくりに取組んでいければいいと思います。
8	校閲をたくさんの人でするのは色々な意見があり (表現) ととても勉強になった。
9	南の拠点では、子育て世代が集える場になることを願います。わざわざ他の市町村から垂水へ行こうと思える魅力的な町づくりを目指してほしいです。市道が大雨のときに冠水することが多いので、環境整備も力を入れてほしい。定住促進対策が、転入者に対する支援助成ばかりなので、鹿屋に家を建てる方が多い。元々の垂水市民を大切にすべきだと思う。
10	会にふさわしい市民の参加。垂水＝ブリ・カンパチ・水ではなく、音楽 (瀬戸口藤吉翁)、美術 (和田英作) も充実させてよいのでは？瀬戸コンクールもにぎわい、市外からの来客数も増えるのでは？又、何よりも垂水市の子供達に音楽・美術に興味をもっともってほしい。そして！！自信をもって進学へ。(「垂水出身」だよと胸をはって言えると思う) ☆定期的に子供達の意見・考え (アンケートでも) を聞いて、子供達の為に未来の垂水を作ってください。※資料作成 etc お疲れ様でした。
11	垂水市を愛する気持、人と人とのコミュニケーションが深まる、あいさつの行きかうそんなまち作りを期待します。「垂水の自然が好きだ」「垂水の人が好きだ」と言えるまちにします。
12	こうした計画を作るだけでなく、全てではなくとも、いくつかは是非実現させて欲しい。努力をおしまないで下さい。
13	人口減少対策はもちろんですが、人口が増加するような取組に期待したいです。また、早急に、子ども達が安心して暮らしていける環境づくりをお願いします。
14	住まい作り、人作り、職場作りが先。